

ならやま名物

## 芋煮会

## 過去最多の参加者集う！

第一回目の「芋煮会」は、入会して一週間後の2008年12月11日(木)、会員20数人が参加して催された。以来8回目を迎えた今年は、12月10日(木)昼、会員70人とビジター2人の総勢72人という歴代最多の参加で開催された。

今年は何故か、天候不順の周期が木曜日となる確率が高く、一週間前から天気予報を注目していた。前々日ぐらいからやっとな降水確率も下がり、曇り空ではあるが、最高気温16℃と凌ぎやすい天候の見込みとなった。

午前中は、芋煮会の準備、ビオトープ、蕎麦関係者以外の全員が、先週雨模様のために延期となっていた「一斉山の日」で山へ。

準備のため、エコファームグループは、掘り立ての里芋を「芋洗い棒」で洗浄する。長時間握って動かしていると掌が痛くなるという欠点があり、少々改良を要するのだが、短時間でしっかりと外側の繊維質の皮が剥がせる。ただし、外の固い皮だけでなく、内部の薄い表皮まで剥ぎすぎないように注意が必要。それは、「ネットリ、しっとり」の美味さの宝庫が表皮の直下にあるからだ。昔の人の生活の知恵は素晴らしい。余談ながら、芋洗い棒の元祖は、松の枝を利用したものであったという。

主役の里芋は、最上川の「甚五右エ門」と越前の「越前大野上庄」という伝統野菜である。種芋の保存や土作り、夏場の適度な水管理、連作回避などに心掛け、有機無農薬栽培に取り組んだグループの皆さんの野菜への愛情と努力の甲斐があり、上々の出来栄えだ。

綺麗になった約200個の里芋、ネギ、大根、牛蒡などの食材は、炊事担当の方々にバトンタッチ。お昼前には、ならやま産の新鮮な有機野菜をふんだんに使い、風味豊かな「ならやま名物・芋煮鍋」、「大根焼き」、「黒米おにぎり」が全て整った。

正午丁度、開会の挨拶、続いてこのイベントに

駆けつけていただいた佐保川地区自治連合会会長の金野秀一さんから、ならやまの活動を評価いただいた上で、このフィールドを地域の子どものための活動の場としても活用してほしいとの挨拶があった。

恒例の「桜島大根」重量当てクイズで盛り上がる。正解は、横綱大関クラスの二株の合計が10.2kgプラス9.1kgで計19.3kg。見事ピタリ賞で第一位となられたのは桜木晴代さんで、ご自分の頭より大きい桜島大根をゲット。以下ニアピン賞の7人の方々にも桜島大根がプレゼントされた。今年は、一株の最大重量が初めて10kgに到達した。発芽後に害虫の被害もほとんどなかったからだが、来年は15kgを目標にしたい。

そして、いよいよ本番の「芋煮会」スタート。あつという間に鍋の前にマイ茶碗持参の長蛇の列ができる。箸が進むにつれて「美味しい」「美味しい」の声がそこそこに響く。お代り希望が続出し、用意した約100人前をほぼ完食。平均年齢〇〇歳とはとても思われぬ旺盛な食欲だった。



最後まで穏やかな天候で絶好の芋煮会日和の中、「旬菜旬味」を十分に堪能していただけた。冬の一大イベントも和気藹々の内に無事終えることが



できた。調理など準備に力を尽くしていただいた方々初め皆様方に感謝申し上げます。

有り難うございました。

(鈴木末一)